

熊本・上益城地域医療構想調整会議（令和4年2月26日開催）における委員からの御意見及び御意見に対する回答

御意見	御意見に対する回答
<p>各圏域の正確な医療需要に基づいた実効性のある医療構想が実現できるよう協議を進めていただきたい。</p> <p>具体的には、令和3年11月11日に開会された熊本県保健医療推進会議において二塚副会長より「今の二次医療圏域の区画について、妥当かどうかを検証していくことについても検討をお願いします。」との発言がありました。保険者代表としてもご発言を重要な視点としてとらえ協会けんぽのレセプト分析を実施しました。その結果、入院レセプト件数において居住地二次医療圏が占める割合は 鹿本30.1%、菊池24.0%、阿蘇18.8%でした。3医療圏とも50%以上が熊本・上益城医療圏となっています。これらの結果を踏まえ、各医療圏において流入・流出も含め構想区域や県境をまたいだ議論を行うことで、現実の医療需要や受診行動に基づいた医療構想が調整会議で協議できるよう進めていただきたい。（冨田委員）</p>	<p>○現行の二次保健医療圏については、平成29年度に策定した第7次熊本県保健医療計画において、熊本県地域医療構想の構想区域と一致させています。</p> <p>○構想区域については、厚生労働省から示された「医療計画作成指針」に基づき、2025年における受療動向のほか、救急搬送時間、交通アクセス、通勤・通学の状況等を考慮し、平成27年度から平成28年度にかけて開催した熊本県地域医療構想検討専門委員会及び各地域の地域医療構想検討専門部会（現在の地域医療構想調整会議の前身）で協議を重ね、決定しました。</p> <p>○また、構想区域ごとの2025年の医療需要の推計に当たっては、患者のフリーアクセスを最重要視する観点から、現在の受療行動を是認する「医療機関所在地ベース」での算定とすることで、都道府県間及び県内構想区域間での患者の流出入数の状況を反映しています。</p> <p>○今後、令和5年度中に策定することとなる第8次熊本県保健医療計画においては、直近の患者流出入に関するデータや地域の意見等を踏まえながら、構想区域及び将来の医療需要について見直しが必要かどうか検討を進めて参ります。</p>